

## 鹿児島の地質13 地層が語る城山の成り立ち

地質担当 鈴木 敏之

鹿児島市の城山は、豊かな自然に囲まれ市民の憩いの場として、また、鹿児島を代表する観光地の一つとして知られていますが、地質的にも面白く、貴重なものがたくさん見られます。

まず、城山の下部には「城山層」と呼ばれる地層があります。この地層は、今から約12万5千年前に海で堆積し、凝灰質シルト～砂層からなります。遊歩道沿いの露頭では、ゴカイやカニなどの巣穴や這い回った跡（生痕化石）なども確認できます。また、城山トンネルなどの掘削工事の際にマガキ、アカニシ、ミクリガイなどの貝化石やマツ、スギ、トウヒ、モミなどの花粉化石なども発見されています。これらの化石から、城山層が堆積した当時の気候が冷涼で、鹿児島市は海の底にあったことが



城山層中の生痕化石

とがわかっています。（城山遊歩道沿い）

城山層は、城山を南限として磯の琉球人松碑付近や伊敷日当平、長井田、小野、西之谷などに分布しています。堆積当時の海岸線は、現在より



マガキの化石（城山層）もかなり陸地側に入り込んでいたようです。

城山層の上には、凝灰質シルト～砂層の「竜尾層」や「鳥越火砕流堆積物」、さらに約3万年前に鹿児島湾奥の巨大な噴火で流出した「入戸火砕流堆積物」が重なっています。また、それらの堆積物の上には約1万年前に桜島から噴出した「薩摩火山灰」が覆っています。



これらの地層は私たちに城山の歴史を如実に教えてくれます。

桜島薩摩火山灰

（城山遊歩道沿い）

## 鹿児島の植物24

## 屋久島のスゲ

植物担当 大屋 哲

平成21年10月19日～21日に屋久島で調査を行いました。その時に見つけた、カヤツリグサ科スゲ属の植物を紹介します。

## ○ハナビスゲ

花期 9～11月

鹿児島では、甌島や黒島、屋久島、種子島に分布するスゲです。屋久島では、川沿いや林のふちの少し湿ったところに生えていました。葉は6～15mmで緑色をしています。高さは40～100cmで、花は先の方に雄花、下の方に雌花がつかます。



また果胞（果実の入った袋）が熟すると白くなります。

## ○アキザキバテイスゲ

花期10～12月

屋久島固有のスゲとして最近、新種として記載されました。これまでは、バテイスゲとされていましたが、この種の花期が3～4月に対し、本種は10～12月に花を咲かせるため別種となりました。今回の調査では屋久島南部のモッチョム岳の林内に見られました。葉幅は3～5mmで先の方はざらつき、高さは30～70cmです。花は先の方が雄花で6～15cmと長いのが特徴です。雌花はその下の方に2～4個つけ、長さ2～10cmです。果胞は細長く緑色をしています。



鹿児島では、秋に咲くスゲは10種ほどしかなく林のふちなどに生えており、わかりやすいものが多いので、是非探してみてください。